

- 01. 小さな革命
- 02. 青い春
- 03. 主人公
- 04. 涙の正体
- 05. 突破口
- 06. 燦然
- 07. Q & A
- 08. 人として
- 09. ひとつ
- 10. 美しい日
- 11. ひたむき
- 12. まなざし
- 13. それでも世界が目覚ますのなら
- 14. 儂くない
- 15. 生きがい
- 16. アイラヴユー
- 17. 東京流星群
- 18. 切望



LIVE REPORT

2 / 21 sat. 広島グリーンアリーナ

## SUPER BEAVER

「絶対に恩返しするから!」と決意表明  
サプライズも飛び出した  
広島初アリーナ公演

結成20周年を越え、凄まじいスピードで進化する彼らにとって、広島初のアリーナワンマン公演。【都会のラクダTOUR2026〜ラクダトゥインクル〜】は、3面の巨大スクリーン、客席中央には長い花道が横たわる。2DAYSのチケットは完売。ライブ前から熱気は爆発寸前だ。暗転から真紅のレーザーが空間を切り裂き、藤原"37才"広明(Dr.)の重厚なリズムの上を、柳沢亮太(Gt.)と上杉研太(Ba.)のフレーズが重なり合っていく。悠々と長い花道を歩き、渋谷龍太(Vo.)が会場の中央に立つ。ゾクゾクする期待感が埋め尽す中、『小さな革命』での幕開け。魂を震わせる渋谷の歌声、今の4人が纏っているオーラに圧倒される。「歌ってくれよ!」という言葉に呼応するクライマックスのようなオープニング。爆発音とともに『青い春』のシンガロング、会場全員のカウントで始まった『主人公』で、一気に心を掴まれる。

「Cave-Be(広島のライブハウス)を何年も埋められなかったんだ…」と。広い会場を見渡し、渋谷が歴史を振り返る。「お客さん5人の前で、言いたかったのは“人数じゃないんだ”ってこと。でも、その時は言えなかった…今日、これだけの

前でなら言える。“人数じゃないんだ”…あなたに会いたかったんだ」と。いつだって目の前の“ひとり”と向き合う4人のスタンスは変わらない。

『涙の正体』、『突破口』と熱量を高めていく。「新曲やっていい?」と演奏した『燦然』では、炎柱があがり、アリーナだから可能なスケール感を見せてくれる。「“SUPER BEAVERは、いつ見ても違うよな”ってライブがしたい」と、静かに語りだす渋谷。集まったそれぞれの人生が、この同じ夜に集結している奇跡をライブの中で音楽にしたいという願いを告げる。伸びやかに『人として』を歌い出し、ドラマティックな『ひとつ』へとバトンを渡す。彼らの紡ぎ出す楽曲を浴びながら、自分の心と向き合う大切な時間。メンバー紹介タイムでは、まずキーボードとして参加している河野圭を紹介、続いて柳沢がマイクを持つ。ここで、「おめでとう!」の大歓声! 誕生日ということで、河野が演奏するピアノに乗せ“Happy Birthday to You”のサプライズ大合唱! 焦って照れまくる柳沢の姿に笑顔が溢れる。

『美しい日』からの後半戦は、まるでライブハウスモード! 自由に歌い踊り、手を叩き、自分を解放する素晴らしい時間。何度も会場を鼓舞する柳沢のギター、躍動感溢れる上杉のベース、魂のビートを刻む藤原、そして近年はプロデューサーと



しても参加している河野の存在感も大きい。過去の楽曲達も、まるで新曲のように新鮮に彩られている。『儂くない』まで一気に歌い切る圧巻のステージング。そして、再び渋谷が語りだす。「あなたに頑張ってもらって欲しくて音楽やってるのに、結局俺たちがエネルギー貰ってるんだよ…だから絶対に恩返しするって。今日、ここに立って決めた」。そして、「生きていて楽しいです。ありがとう」の言葉から最新曲の『生きがい』へ。画面に浮かび上がる歌詞が音楽に昇華され、心の奥に響き渡る。『アイラヴユー』の熱狂的コール&レスポンス。スタンドマイクをオーディエンスに向けた『東京流星群』では、金色のテープが空を舞った。ラストに選ばれたのは、圧倒的な熱量で届けられた『切望』。ライブという限られた時間の中、音楽を通じて4人と語り合った素晴らしい時間、人生の1ページ。全てを出し切った後には、心地よい疲労感と共に、身体中を生命力が駆け巡っていた。☺